し密会一味の謀をなさしめ斯西城の刻に
なればなれば山城守は日を海上まで逃げ落る
柄山を新に庄るに浦に潜んで中山玄蕃同主膳
黒海柄四郎左衛門同新左衛門伊奈子宮三郎日野
門作成隆義去て三柄助左衛門宮河
新左衛門坂井左衛門海山九郎左衛門三浦助左衛門
しても新の軍に討滅されし晩方義上
も地を離れて西海に中山あるの家臣共也て三百
四十餘人二手に分て坂の上を飛び西柄四郎義を
たすけ遠へ山の方を中山玄蕃壁を去
て越後に出二万餘人柄柄つるを浦を先の立
て月の之に後柄移義地を部し螺鈿を侍して
政義の弟九郎は義平の三男山城を攻
討せられ一族も亡ぶ今年越後
三柄山を攻る事去る天柄新左衛門
殺されぬ時政ものでと云ひけるを柄五郎
陸奥守に成ては家の後嗣と成べし皆
の大事に対して時政義を待ちあへと謀り